

取組名	救命講習「心肺蘇生法とAEDの使い方」について講義及び演習		
特徴	教職員・生徒全員が心肺蘇生法とAEDの使い方について演習を行う		
学校名	光市立室積中学校	期日	平成30年7月19日(木)

1 ねらい

- 講義・実習を通して、第一発見者となった場合に、迅速な対応がとれるようにする。
- 子どもの時期から繰り返し救命法を学ぶことで、生涯にわたる有用なスキルとして定着を図る。
- 人の命を救うことを学ぶことによって、自他の命を大切にする心や共助の精神を育む。



2 概要

- (1) 場所 本校 武道館
 (2) 講師 徳山中央病院 集中治療科 宮内善豊医師
 (3) 対象者 2校時 1年生(53名)、1年部教員他(7名)
 3校時 3年生(48名)、3年部教員他(6名)
 4校時 2年生(51名)、2年部教員他(6名)



(4) 講義・演習(50分間)

【講義】(10分)

- ・心臓のしくみやはたらき、また、心停止したときの心臓の状態(特に、「心臓しんとう」)について説明を聞く。
- ・実演を交えながら、心肺蘇生法とAEDの使い方について説明を聞く。

【演習】(35分)

- ・各学年3グループ(1グループ12人～14人)に分かれて演習を行う。
- ・第1発見者、協力者など役割を交代しながら、全員が心肺蘇生法とAEDの使い方について演習を行う。
- ・教職員も生徒のグループに加わり、指導助言を行いながら、自らも演習を行う。



【講評】(5分)

- ・講師から、演習を通しての気づきやアドバイスをいただく。



3 成果と今後の課題等

昨年度から全校生徒・教職救急救命講習を受講する体制にした。(一昨年度までは委員会活動として実施)

男女混合のグループであったが、生徒は互いに協力しながら積極的に演習に取り組んでいた。講師や養護教諭が活動の様子を見守るとともに、各グループで教職員と一緒に演習をしたことが活動の活性化につながったと感じる。演習用の模型が3体であったため(昨年度は8体)十分な演習ができるかどうか不安要素もあったが、全員がひととおりの演習をすることができた。

2・3年生は昨年度の経験から、スムーズに演習に取り組み、講師からお褒めの言葉をいただいた。

今後も継続的に実施することで知識やスキルの定着を図るとともに、実践力を高める工夫(例えば、避難訓練時に要救助者を設定する等)を協議していきたい。

